

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

トップダウンの経営には限界がある 富田 哲郎 (JR東日本相談役)

1. 私は現場を訪問した際や講義をするときには、「私のキャリアには3つ『まさか』があった」と語っています。不滅と信じた国鉄の消滅は1つ目の「まさか」でした。2つ目の「まさか」は、2011年3月の東日本大震災です。そして、20~23年の新型コロナウイルス禍が3つ目の「まさか」です。
2. これら「3つのまさか」を通じて、会社が困難を乗り越え、成果を出す鍵は社員一人一人の力だと改めて実感しました。経営者がやるべきはそうした社員の力を引き出し、伸ばし、生かすこと、そして活躍の舞台を提供することです。不確実で変化の激しい環境下ではトップダウンによる経営には限界があります。
3. ですので私は日頃から現場の社員たちに「会社を変えるのはあなたたちだ」と伝え、訪問先の現場で揮毫(きごう)を求められれば、「社員の力は無限だ」という意味を込めて「無限」などと書いてきました。制度面では、高卒の社員が給料をもらいながら4年制大学に通うことができる「国内大学在学制度」などがあります。このように社員にチャンスを与えることも大切です。
(参考:「日経ビジネス」2025年1月13日号)

経営者のための経済学

日本の実質経済成長率は151カ国中144位 加藤 出 (東短リサーチ社長)

1. コロナ禍前の19年と、IMF(国際通貨基金)が予想している29年の実質GDP(国内総生産)を比較した10年間の累積の実質経済成長率では、日本が151カ国中144位(人口100万人以上の国と比較)。結局、日本の潜在成長率は低く見られているということです。潜在成長率の低さは人口減少と生産性の低さが主因です。黒田東彦前日銀総裁が金融緩和を徹底し、その結果として円安が進んで株価が上がったことは事実ですが、構造的な問題に対処できていないので生産性は上がらないままです。
2. 成長するためには、まずは人口減少の問題ですが、これを解決するのは非常に難しい。優秀なスキルを持った移民にどう来てもらうのが重要です。生産性という点では、人材育成も非常に重要です。現在、海外企業は日本に投資する気がありません。外国からの対内直接投資対GDP比は、諸外国と比べ日本が極端に低いことから明らかです。
(参考:「週刊ダイヤモンド」2024年12月28日・2025年1月4日号)

経営者のための営業学

多角化と社内ベンチャーの可能性を探る

1. 昨年、日本はGDP(国内総生産)がドイツに抜かれ4位に転落した。為替など言い訳せず、日本よりも人口が少ないドイツに抜かれたことを真摯に受け止めるべきだろう。日本の低迷が続く理由の1つに、米国のシリコンバレーのようなベンチャーを排出する土壌がなく、産業の新陳代謝が進まないことがあるといわれている。だが、この四半世紀の日本でのベンチャー育成の取り組みとその結果を見ると、答えは出ている気がする。
2. 多角化と社内ベンチャーをその可能性の1つと考える。数年で華々しい社会的インパクトを起こすような起業とは違うが、既存事業や祖業の衰退を補い、会社を支える存在になる例もある。富士フィルムは社内に眠る技術を生かしてフィルムに隣接する分野に進出し、事業転換を実現した。大日本印刷は印刷で培った技術を生かして半導体製造用のフォトマスクなどを育成し、今やエレクトロニクス分野が営業利益の過半を稼ぐ。両社とも周辺技術を生かした多角化が成功したものだ。
(参考:「週刊東洋経済」2025年1月18日号)

古典に学ぶ

誰でも乗り越える知恵を持っている

1. たとえ失敗したとしても、命までとられるわけではありません。何より、私たちは誰でもが、乗り越える知恵を持っています。
2. そう考えれば、覚悟が決まります。「でも・・・」という言葉は、もう出ないはずです。
(参考:名取芳彦監修「空海 道を照らす言葉」:河出書房新社)